



令和元年度

自治振興区
活動促進補助金

実績報告書



目次

令和元年度 自治振興区活動促進補助金 実績報告書

- 歴史的資源を活用した地域づくり事業
山内自治振興区・・・・・・・・・・ 1
- 八幡地域健康づくり事業
八幡自治振興区・・・・・・・・・・ 2
- 高野地域創生事業
高野地域自治振興区連絡協議会・・ 3
- 郷土史「比和の民族と歴史」総合版作成事業
比和自治振興区・・・・・・・・・・ 4

1 自治振興区名	庄原市山内自治振興区
2 事業名	歴史的資源を活用した地域づくり事業
3 事業費	1,412,840 円（うち補助金 1,120,000 円,自主財源 292,840 円）
4 事業内容	

地域史をととして三世代間での歴史認識を深めるとともに郷土愛を高め、将来の地域づくりにつなげるために歴史冊子を作製した。また、地域史を観光資源として活用し、地域の活性化を図るために、地域史の説明看板を設置した。

1. 冊子の作成

日吉神社、義民の碑にかかわる歴史を小学生に理解できる内容で作成し、山内小学校生徒や、地域に配たした。

2. 説明看板、位置看板の設置

小学生に理解できる内容の義民の碑、杏坪柿の説明看板の設置と甲山城に城跡を示す郭看板を設置した。

5 効果・変化

地域史を小学生向けにまとめたことで、小学生たちが地元の歴史を知るきっかけとなり、郷土に対し自信と誇りをもてるようになった。また、この本がきっかけで、自治振興区にある郷土史研究会や各種活動に参加してくれる子どもたちや、自主的に移住者に対し地域史を伝える子どもたちなども出てきており、郷土愛の醸成に寄与している。

小学生にもわかりやすい内容としたことで、大人が歴史の入り口として読まれるなど、改めて山内の歴史を再認識している人も多い。

山内小学校の教員を対象に山内郷土史研究会メンバーがボランティアガイドとして史跡めぐりを実施し、多くの教員が参加されるなど、山内の歴史の再認識につながっている。

説明看板や甲山城の郭名を記載した看板を設置したことで、観光資源としての基盤が整った。新たにボランティアガイドの育成を行っており、地域の活性化に向けた取り組みにつながっている。

6 活動写真



1 自治振興区名	八幡自治振興区
2 事業名	八幡地域健康づくり事業
3 事業費	460,056 円（うち補助金 368,000 円,自主財源 92,056 円）
4 事業内容	

当振興区では、平成 30 年 1 月から八幡地域の高齢者の介護予防を図るために「八幡フィットネスセンター事業」を実施している。この事業は、フィットネス機器を利用した身体トレーニングをすることによって高齢者の健康維持を図ろうとするものである。

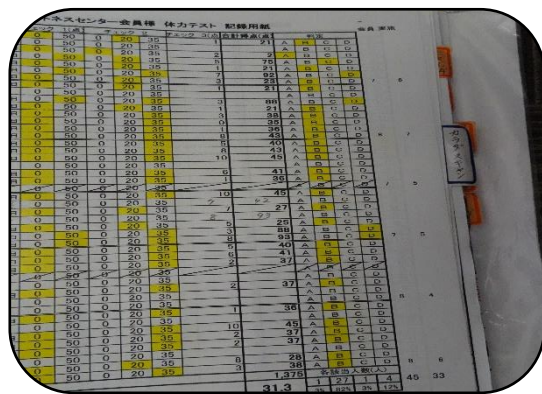
フィットネスセンターに導入している機器は、上肢・下肢の強化が主体であり、高齢者の介護予防で必要となる柔軟性の改善や体幹を強化するための機器は導入されていなかった。今回の自治振興区活動促進補助金を活用して、トレーニング機器（機器名：レッドコード）を追加することによってフィットネスセンターの機能の充実を図り実施効果を上げようとするものである。

5 効果・変化	
---------	--

- 新しく機器を導入したことによって、一回のトレーニングで対応できる人数が増えて会員の待機時間が無くなり有効的な時間配分が可能となった。また、会員の追加募集を行い、会員数の増加につながっている。
- 機器の導入から 1 年経過していないため、効果について数値を現すのは難しい。しかしながら会員個々の体力テストを定期的の実施し、体力の維持に努めている。
- 会員年齢 65 歳～85 歳までフィットネスを始めてから介護認定された会員は皆無であり、地域住民の健康維持増進に寄与している。
- 身体トレーニングだけでなく、会員同士の会話等、皆が楽しく参加できることで引きこもり防止やストレス解消にも寄与している。

6 活動写真	
--------	--




1 自治振興区名	高野地域自治振興区連絡協議会
2 事業名	高野地域創生事業
3 事業費	3,289,880 円（うち補助金 2,631,000 円,自主財源 658,880 円）
4 事業内容	高野地域には現在、上高自治振興区と下高自治振興区の2つの自治振興区があり、それぞれの自治振興区を中心とした地域づくりを進めている。今後、人口減少に歯止めをかけるために、高野地域が一体となって、効果的に取り組みを行っていく必要があるが、高野地域としての将来ビジョンがなく、地域が一体となった取り組みができていない。そこで、高野地域が一体となり、定住促進に係る住民意識の醸成・啓発を図るために、専門家監修のもと仕組みの構築と取り組みの検討を行った。 ○ワークショップの実施（全7回） 公募により当事業に係る委員の募集を行い、選出された29名の委員によるワークショップを実施し、仕組みの構築を図った。 ○先進地研修（岡山県津山市阿波町） 住民による自立した村づくりに取り組まれている「あば村」を視察し、「地域の暮らし」、「仕事づくり」、「移住定住」の取り組みについての研修を行った。
5 効果・変化	※事業終了後の現在の状況を記入ください。 ワークショップ等の実施の中で検討した仕組みや取組についての報告会を開催したところ、200名余りが参加し、事業に対する協力などの意見が数多く寄せられるなど、住民の意識啓発に寄与した。 また、策定した「高野地域未来創生基本ビジョン」について、自治会単位で説明会を行い、住民意識の啓発に取り組むとともに、住民アンケートを実施し意見を集約するなど、骨子に沿った事業展開に向けた取り組みを行っている。 令和2年度は、「経済」「定住」「教育」の3つの部門のうち特に「定住」に重点を置き、空き家調査に取り組むとともに、空き家活用の研修会を計画するなど、定住促進に向けた住民啓発に取り組んでいる。
6 活動写真	円卓会議  先進地視察   住民説明会（TAKANO NO YOAKE）

1 自治振興区名	庄原市比和自治振興区
2 事業名	郷土史「比和の民族と歴史」総合版作成事業
3 事業費	745,200 円（うち補助金 596,000 円,自主財源 149,200 円）
4 事業内容	

郷土に愛着を持つ子ども・若者を育て、地域に住んでもらうとともに、歴史文化等の資源を磨き、広く PR することで地域の活性化を図るために、比和町の魅力や歴史文化を PR できる冊子を作成した。

① 冊子の作成（200 部）

比和郷土史研究会の会報「比和の民族の歴史」の 1 号から 35 号までを平成分としてまとめた「比和の民族と歴史」総合版を作成した。

② 作成した冊子の配付等

比和町内の小・中学校、市内図書館、町内関係団体、地区民・市民等へ配付した。また、市外在住の比和町出身者による「ふるさと比和の会」において紹介した。

比和自治振興センター、あけぼの荘等に配置し、来館者に比和町の歴史文化等の PR を行った。

5 効果・変化

郷土史「比和の民族と歴史」総合版の活用（郷土学習）

① 小・中学校において郷土学習の内容確認として活用されるなど、郷土学習の充実が図られ、郷土愛の醸成に寄与している。また、地区民から昔の資料や史跡に関する情報提供が増えており、地域住民の郷土に対する魅力の再認識に寄与している。

② 郷土史の学習会や、文書では分かりにくい伝統芸能や技術のデジタルデータ化に取り組むなど、郷土愛の醸成に向けた新たな取り組みにつながっている。

町内外からの反響

① 郷土史に対する関心が高まり、郷土史研究会の会員の増加につながった。また、会員の意識にも変化が生まれ、新しく記事を書くものや今までにない視点での記事を目指すものが出てくるなど、郷土史に対する関心が高まり、郷土愛の醸成の一助となっている。

② 振興区の会報や SNS で紹介するとともに、新聞で取り上げられた事により、庄原市内外から多くの問い合わせがあり、地域の魅力の発信に寄与している。

6 活動写真



作成した冊子



郷土学習の様子（比和小学校高学年）



完成報告会・ワンポイント学習会



郷土学習の様子（比和中学校）

